

一〇一五年九月二三日

夜長月山家の闇の深さかな
鋤先に纏はりあそぶ秋の蝶
さわさわと風の翼か稻穂波

一〇一五年九月一二日

すすき原分けて出できし猫車
新涼や帯に惹かれて新刊書
斯く高く斯く青き空今朝の秋
録り置きのビデオに耽る夜長かな

一〇一五年九月二一日

臍長けし白寿の面や菊日和
どの門も菊の鉢置く屋敷町
これよりは牧場への径吾亦紅
電車いま谷戸の稻田に傾きぬ
焼き秋刀魚選びし皿はながしかく

無音界なる黄落の朝の森
生かされて百寿を賜ふ今朝の秋
存問子手土産といふ今年米
菊の賀や百寿に賜ふ銀の杯
店先の面積占むる大西瓜

一〇一五年九月九日

残暑なほ引き籠る日々持て余す
飛び石に庭下駄すべる白露かな
と見る間に富士の全容霧襖
叡山も隠れし闇に望の月

一〇一五年九月八日

ただ無為に佇みをれば桐一葉
愛唱の詩篇誦しつつ花野ゆく
避暑山家篠突く雨に寧からず

一〇一五年九月七日

渓谷の奈落に出会いふ一瀑布
秋暑しとて亀石も眼を閉ずる
うそ寒し医師はデーター見るばかり
力石にて曲がりたる蟻の道

力石狗尾草に隠れけり

毎日句会みのる選・一〇一五年九月一五日

よし女
せいじ
澄子
もとこ
和繁

明日香
せいじ
たか子
こすもす
澄子

明日香
せいじ
たか子
こすもす
澄子

山董 ゆ
董よし
董雨
椒雨
山董 ゆ
董よし
董雨
ベ

もとこ
澄子
なつき
やよい
もとこ
澄子
なつき
やよい